

平成 30 年度 第 1 回 習志野市学校施設再生計画(第 2 期計画)検討専門委員会	
開催日時	平成 30 年 6 月 29 日(金)13:30～
場 所	市庁舎 5 階 会議室 5-1
出席者	[委員] 伊坂委員、倉斗委員、長澤委員、西尾委員、櫻井委員、鈴木委員、川崎委員、齋藤委員、佐々木委員、三代川委員 [事務局] 植松教育長、櫻井学校教育部長、遠藤学校教育部技監、塩川学校教育部副技監、府馬習志野高等学校事務長、三角教育総務課長、村山学校教育部主幹、吉川学校教育部主幹、高田学校教育部主幹、本間学校教育課主任管理主事
議 事	(1)習志野市の学校施設をめぐる現状と課題について (2)学校施設再生計画(第 2 期計画)検討専門委員会の今後の取組について

傍聴者: 10 名

【次 第】

1. 開会

- (1)教育長挨拶
- (2)委員長及び副委員長選出

2. 議事

- (1)習志野市の学校施設をめぐる現状と課題について
- (2)学校施設再生計画(第 2 期計画)検討専門委員会の今後の取組について

3. 報告

4. 閉会

開会

教育長挨拶

事務局紹介

委員長及び副委員長選出

[委員の互選により、委員長に長澤委員、副委員長に伊坂委員を選出]

委員長挨拶

副委員長挨拶

議事

議事1 習志野市の学校施設をめぐる現状と課題について

(資料に基づき、事務局より説明)

事務局 資料説明

委員長 事務局より、市が進める公共施設マネジメントの取組という、習志野市の位置づけと基本的な取組の方針について説明いただいた。

例えば、30年以上経過した建物が77%というのは、全国平均より10%くらい高い。

年間の施設整備費だと、4割の施設しか更新されておらず、各地で同じような試算をすると大体5割くらいである。そういう意味では、習志野市は厳しい状況にあるということかと思う。

習志野市の場合は、教育施設の面積が6割で、全国平均では4割程度であるから、そういう意味では、公共施設の中で学校施設が占める位置、学校施設が地域のために果たす役割の重さがデータから伺えるということだと思う。

基本的な目的として、公共サービスは継続して提供し、一方で、持続可能な都市計画を実現し、負担を先送りしないということが基本的な姿勢として書かれていて、スマートシュリンクというか、ただ減らすということではなく、いかに賢くそれを進めるかということで、知恵が求められるということであるが、取組としては、全国に先駆けて取組んでいるということだと思う。

その後の細部の説明については、前半で文部科学省の基本的な考え方や取組の状況について説明があり、その後、習志野市の学校施設の現状について様々な観点から資料が整理され、それについて説明があった。実態に基づいて検討していくということで、資料を説明いただいた訳である。

今日は第一回目なので、各委員のみなさまからご発言いただき、学校、あるいは学校施設に対する考えや、こういう姿勢で考えていきたいということも合わせてコメントしていただけたらと思う。

倉斗委員 資料⑦全国の状況では、習志野市の課題は解決できないと強く実感した。

資料⑩などにある児童数の状況を見ても、全体として見たものよりも地域的に見ていくと、かなり大規模校になっている学校が多く、日本の全体で見ていく中で、小規模の方に話題が集まっていることに対し、習志野市では公共施設を減らさなくてはいけない状況の中で、どう対応していくかということを考えなくてはいけないということが分かった。

その中で、公共施設マネジメントの中での学校の位置づけという話になると、子どもが減っていくので、複合化して地域施設としても使えるようにという話が主に出てくると思うが、今の状況を見ていると、地域施設を活用しながら、地域全体を教育の場としていくという、新しい習志野ならではの課題の解決の仕方を、この委員会で見出していかななくてはいけないのではないかという感想を持っている。

資料⑩-2 小中学校の児童数の推計値と実績値で、左側が児童数について推計したもので、現状の棒グラフになっていて、推計よりも児童数が少ないと読み取れるのがいかがか。

事務局 その通りである。

倉斗委員 それに対して、推計した学級数よりも実績としては学級数が増えているとなっているが、理由はどうか。

事務局 当初、推計したものについては、普通学級の数だけで推計しており、実績側については、普通学級と特別支援学級を合わせて表示している。実際は、平成 30 年度の小学校学級数推計値を見ると 305 になっており、普通学級だけで比べた場合、平成 30 年度の(普通)学級数では 289 ということで、学級数は減っている状況となっている。

倉斗委員 資料を公表するのであれば、推計の間違ひのように見えるので、説明が必要と思う。

資料⑩-3、2023 年までの学校ごとの生徒数の状況がありますが、一旦減って増える地域があるように思うが、どのような理由か。

事務局 谷津南小学校につきましては、先ほど説明でも触れましたが、JR津田沼駅南口の開発に伴い、児童数が増えています。奏の杜地の一部の地区につきましては、現在バス通学により、谷津南小学校に通っている。現在の推計を見ると、バス通学児童数が年々増えていく傾向にあり、そのため谷津南小学校の児童数が増えている。

倉斗委員 バス通学は、一時的なものではなく、今後そのような形で進めるということで、この計画を立てて行くということか。

事務局 谷津南小学校のバス通学につきましては、学区の変更を行っており、2029 年度までは一部の地区については谷津南小学校に通うこととなっている。

倉斗委員 津田沼にマンションが建とうとしていますが、そういったものもこの推計に含まれていると考えてよいか。

事務局 JR津田沼駅前に建てられているマンションにつきましては、学区の変更をし、向山小学校に通うこととしており、児童数が増えるの見込んでいる。2018 年度から 2023 年度の間に児童数が増える状況となる。

倉斗委員 学区通りではない形で運用されており、それが続くという見込みか。

事務局 奏の杜地区については、大規模な開発により、谷津南小学校、向山小学校ということで、一部地区にいて、学区を変更しています。

倉斗委員 資料⑪総学級数で、津田沼小学校は、クラス数が 23 に対し使用教室数は 22 ということで、クラス数よりも使用している教室が少なく、そのような学校が多いが、どういう状況か。

事務局 特別支援学級の差である。

倉斗委員 余裕教室というのは、ここでいうA-BのC(保有普通教室数-使用教室数)の中で使っているという意味で書かれているのか。

事務局 その通りである。

倉斗委員 資料⑭の黄色と水色の色分けは何を意味しているのか。

事務局 工事の部分が黄色、設計が青色となっている。

倉斗委員 計画に記載されている向山小学校のトイレのみは、計画時からトイレのみの改修をする予定であったという理解でよいか。

事務局 当初の計画から見直しを行っています。当初、老朽化の部分も入っていた学校もあるが、実際工事を行う中で、トイレを優先的に改修することとし、一度修正を加えている。

倉斗委員 計画時は大規模改修であったということで分からないと、資料の意味が変わってしまうのではないかと思う。

事務局 ご指摘がございましたので、追記いたします。

委員長 どうもありがとうございました。

資料⑩-1の1ページ目に全小学校の学級数推計、18ページに全中学校の学級数推計があり、全部足すとほぼ横ばいになっている。それに対して、増えているところ、減っているところ、横ばいのところと様々で、それを一団で地域に落としてみるとこのような状況になると、地域の中の学校ということを考えるときに、一括りにはできなくて、地域の特性などを勘案しながら考えなければいけないということが、このデータでわかり、難しさも感じられると思う。

西尾委員 私は地元の間人ではなく、民間のシンクタンクで研究員をしているが、四年間ほど市役所に民間採用として勤務した経験があり、公共施設マネジメントの先進地であるさいたま市で、実際に実務を担当したという経験がある。

習志野市では、市全体の公共施設再生計画の審議委員をやらせていただいております、専門家の立場で色々話をさせていただければと思っている。

資料⑧は概要をまとめていて、わかりやすいと思うが、今回、施設について検討することなので、施設に関連するデータを入れていただきたいと思っている。例えば、敷地面積は入っているが、延床面積が入っていないので、入れていただきたい。学級数は入っているが、教室数、余裕教室数等があると検討がしやすいと思う。

資料⑩-1で、学校の生徒数、学級数の推計を、今後さらに長期の推計を行うということだが、推計するセルが小さくなると誤差がどんどん大きくなり、市全体であればある程度正確に推計できるが、小さい学区となると誤差が大きくなる。長期の推計があると便利だが、危険な側面があるので、慎重にやるべきであると思う。ぱらぱらと見ても、本当にこの勢いで伸びるのかというような推計がされている学区もあるので、そこを注意したいということと合わせて、どのように推計をしているのかということをお次回教えていただきたいと思う。

資料⑩-2、なぜ推計と実績が増えているのかということが大事だと思うので、きちんと説明いただいた上で、誤差が発生しているということは、今後の推計の中に反映していかないといけないと思う。なぜ誤差が出ているのか、原因の究明と今後の推計に反映していくという観点をお願いしたいと思う。

資料⑪、普通教室の利用状況が示されていますが、普通教室ではない教室が学校にたくさんある。例えば、特別教室や管理教室など、ここに書いてあるものは普通教室を特別教室として使っている数であって、それ以外にもともと特別教室である教室などがある。一番問題なのは、普通教室ではない教室で空いている教室の存在である。これは活用済教室と呼ばれているようだが、普通教室の中で空いているものは余裕教室として計上されて表に出てくるが、そもそも普通教室ではない教室で使っていない教室はなかなか表に出てこないで、実態がわかりにくくなっている。出しにくいデータかもしれませんが、かなり踏み込んで検討していかないといけない会議だと思いますので、できるだけ情報は全部出していただきたい。

一番大きい問題であるが、資料⑭、今回第2期の計画ということなので、一番重要なことは、第1期の計画の中で、何ができて何ができなかったのかということを検証し、第2期に何が課題として残り、それについてどう対応していかなければいけないのかということをおきちんとやっていかないといけない。説明はあったが、口頭での説明だけで、実際に計画と実績で

どのような差が生じ、どのような課題があったのかということについてはわかりにくいところがあったので、第1期の計画の実績の評価・検証の内容については、きちんと資料化をしていただいて、それを第2期計画の検討に引き継いでいくことが大事ではないかと思っている。

良い計画をつくったので、それをチェックして知恵を回していくという形で第2期計画に引き継ぐことが大事であると思っている。

事務局 資料の作成につきましては、資料⑧、⑩は、わかりやすい資料を作成し、提出させていただく。

資料⑭の所で、課題について、実績評価ということで、こちらについてもまとめたものを提出させていただく。

委員長 第1期計画の検証については、この委員会での議題、役割でもあると思うので、この委員会で検証するための資料を事務局で用意していただき、ご指摘いただければと思う。

櫻井委員 子どもたちの学習の充実、環境の充実、どのような校舎でありたいのかと考えたときに、色々と問題がでてきて、子どもの数は10年、20年過ぎると1,000人から300人くらいになりたりということも踏まえて計画しなければならないと実感した。

そういった事を踏まえてのこれからの検討委員会をどう自分で考え、役に立てるのかと思う。

資料⑩-2で、現場にいた自分だから感じるのかもしれないが、このような資料を統計として出すとき、なかなか難しい部分があり、そういうことが推計の見通しとして難しいという気がしたので、推計の違いがここ出てくるのかと考えた。そういった事も含めて、さらに正確な資料をという要望だったと思う。

今、子どもたちの生活様式が家で恵まれていて、私が在職しているときもトイレが大きな問題で、トイレから見直そうということで、ほとんどの学校がきれいになっているので、生活環境と学校での環境が大きな部分であったので、解消していただいているというのはありがたいと思う。

まだまだ不十分であると思うので、トータル的に、そういった事も詰めながら進めていってほしい、それを含め検討委員会を進めていきたいと思った。

鈴木委員 小学校、中学校、高校の改修、再生の見直しは大変なものだと、苦労すると思った。自分の所の学校が無くなるということは大反対になる。とても簡単にはいかないと思っているので、よほど市民のみなさん、住民のみなさんにわかっていただけるような話し合いをしていかなければならないと思っている。

説明にもあった学校数のグラフが、上限が800人、1,200人、400人などとなっており、見にくいと思った。もう少しわかりやすい資料を作っていたらいいと思う。

学校の改修は、建てた年数であると思ったら、そうではないと改めてみている。教育現場の中で、市内の方も、学校の方も、市内の小・中・高の学校全部を認識している中で順番を決めているということは資料を見て判った。

そういった事も市民にPRする必要があると思う。委員会だけで決めているのではなく、実際はこうであるということもPRしていかなければ住民は納得しないので、そういった事も委員会の課題の一つに考えて頂けるとありがたいと思う。

委員長 検討の課題に即してわかりやすい資料づくりをお願いしたいと思う。

川崎委員 私是一般公募で、生まれも育ちも習志野市内で、子どもたちも習志野市内の学校に通わせています。学校の中で役員やボランティアをしていて、子どもたちや子育てしているお母様方の目線で、学校再生計画がどのような考えで、どちらの方向に向かっていくかということ、そこに住んで使っている人達の現状と、この先どのようにやっていくのかということをも自分で感じたくて委員になりました。

資料も、子どもたちを学校に通わせていたり、長年住んでいるので、人口の増えているところ・減っているところ、学校の教室が足りないところ、空き教室が多くてそれをどう使っていくかということは、毎日学校に行っていて目にしているもので、市民ではなく、普段の生活からも見ていて、資料を見てなるほどと思った。

委員長 そういった立場から感じたことを仰っていただきたいと思う。

齋藤委員 藤崎は、中学校区、小学校区、コミュニティが分けられない。資料を見ると、藤崎は大久保小学校のコミュニティと関わっているが、大久保小学校は藤崎 6 丁目にある。藤崎小学校は藤崎 4 丁目にあり、第五中学校は藤崎 2 丁目にある。藤崎に通っている人にとっては、大久保小は遠い存在であったり、菊田公民館が公民館エリアでは藤崎小学校が関わりますが、菊田公民館は津田沼小学校のすぐ近くにあり、藤崎の住民で菊田公民館を知らない住民もたくさんいる。

コミュニティと学校との関わり合いをどのように融合していくのかというのを、色々考えていく必要があると思った。

私達は習志野に暮らしているので、マンションが建っているとか、市のホームページを見ると通学区区が変わってきているというようなことを知る機会があるが、実花小学校は、私達は“ユトリシア”ねという話がすぐ出てきたり、鷺沼台にできるマンションは津田沼小学区、鷺沼台にできる戸建ては大久保小学区、大久保のマルエツの横にマンションができる、大久保小学校はもっと増えるのではないかと思うような、市内に暮らしているとひしひしと感じる部分があるので、他の委員の方では感じられないこともあると思うので、市内でどのようなところで開発が見込まれ、その子どもたちはどこに入学を予定され、そのためにその学校が増えるというような数字も伺えるとうれしいと思った。

学級数も難しいと思った。今年から 3 年生が 35 人対応になり、4 年生になった時にクラス替えするのかと先生に聞いたが、まだ分からないということで、千葉県が 35 人にしようと言ったら学級数が増えるので、空き教室がない藤崎小としては難しいと感じている。

学校の予想というのは、誤差も含めて、難しいと思いながら、資料をよく読んでついていけるようにがんばりたいと思う。

委員長 習志野市内の地域性による違いを読み込みながらということは大事であると思う。

藤崎小ができて間もない頃、オープンスペースの活用の仕方などを調査したことがあるので、藤崎と言われると懐かしい感じがする。

佐々木委員 資料が多く、理解するのに時間がかかるが、わかりやすい資料である。

学校施設再生計画について、習志野高校の再生は議題になるのか。

資料⑧に習志野高校が入っているが、他の資料には全く出てきていないので、どのように考えているのか。

事務局 現在の学校施設再生計画は小中学校のみの計画となっているが、第2期からについては習志野高校も含めて計画作成していく。

佐々木委員 色々な小中学校との関わりがある中で、保護者の方はトイレに敏感となるもので、変わった段階で保護者、生徒、先生方にも喜ばれ、トイレ以外もやりたいところは山々だが、トイレだけでも先にやろうという意思の表れで進んできたと理解している。私達が資料⑭の表の計画をつくっていくと考えると、相当重要な責任があると思い、PTA としてやれることは一生懸命やっていく。

三代川委員 今のトイレの話からすると、子どもが洋式でないとトイレができないということがあり、急いで改修していただいていると思うが、トイレを我慢する子どもが多く、汚いから行かれない、和式だからできないということがあり、再生計画で第一に上げていただいているのは、非常に助かる部分であると思う。

奏の杜の開発をしたときの児童の推移について、これが一番あてにならなかったことだが、こんなに増えるはずではなかったというのがあり、5 年後、10 年後の推計は難しいと思う。その後震災があり、(国道)14 号より海側は子どもたちがいないところが多い。児童の推移について、難しいと思うが、お願いできればと思う。

事務局 推計については、しっかり行っていきたいと考えている。

委員長 地域性があるので、推計方法も十分検討して頂きたい。

副委員長 資料⑭で、非構造部材についての工事は終わっているということでよろしいか。

事務局 小中学校の体育館の非構造部材の工事は終わっている。習志野高校については、現在取り組んでいる。

副委員長 非構造部材は体育館だけではないと思う。

改修する際、教室を特定目的化することを主としていたのか、汎用性を主にしていたのかによって、ずいぶん違ってくと思う。

色々なところで、習志野市は教育に関しては保守的だと聞かすが、なぜ千葉市では打瀬小学校のようなものができて、習志野市は、教育の内容をハード面から検討するという発想があったのかということ、遡って聞かせていただきたいと思う。

施設に関する事として、ここの議論に関わることでいうと5 点あると思っている。

1 つめは、資料⑩-1、特別支援学級に関する将来に関する推計が、2023 年で 20 クラスになる、人数が減っていくと読んでよろしいか。学校における特別支援学級がニーズを満たしていないという市もあると聞いていて、習志野市で特別支援教育を将来どう考えていくかということ、教室の数にも結びつくので、構想があれば聞かせていただきたい。

2 番目は、ICT だと思う。総務省と文科省は 2020 年で一人一台タブレット、これは色々問題があり、佐賀県等でも色々課題が出てきているが、コンピュータ室を中心とするのか、1 セット持ち歩くのかは考え方が大きな違いとなるので、それにより施設が必要なのか、どのように使うのかということが出てくると思うので、将来的な構想やプランがあれば示していただきたい。

3 番目は、外国語教育で、それについて部屋が「いる」・「いらぬ」ということがあると思う。

4 番目は、特別相談のためのスペースがほしいところであるが、それについては余裕があるのか。

5 番目は、中学校における習熟度別少人数教育に対して、将来どのような考え方があるのかと思ってる。

国の資料として、小中学校の適正規模、適正配置が出てくるのであれば、関わるものとして二つ重要な課題がある。

一つはコミュニティスクールで、市川市では全校コミュニティスクールとするといっている。

もう一つは、小中の一貫校化については、文科省から基本的な資料が出ているので、適正規模化の資料を出すのであれば、それも合わせて出していただき、一度はこういう場で議論し、みなさんの目に触れさせてほしい。統廃合は人数だけで計算してはだめなので、どういう教育を目指すのが重要である。市内のどの学校も一斉にやるということはなく、つまり全て打瀬小学校のように造るということはないので、基本的な資料があれば出していただきたい。

千葉市は、新宿小学校が大変な問題を抱えており、出して良いという資料があればここで見て共有できたらと思う。新宿小の校区から中学校から進学するときに、3 つくらいから選べるということのようだ。情報を共有できればと思う。

委員長 各委員の発言を通じて、施設再生計画の中で、まずは課題とすべきご意見を伺いたい。そういった事をテーブルの上に乗せながら検討していきたいと思う。

説明の中で、試算では市の公共施設の改修に毎年38億円が必要であるとのことだが、これまで投資した額は年間平均15億円というようなことがある。この検討の中で、全体の予算の中で見直しがされる可能性があるかもしれない。その場合にも、ここでの目標が示されるということがそういう動きにつながってくると思う。

財政的には、課題を出した上でそのようにまとめていくかというあたりで、ある部分は従来の学校像に囚われないアイデアが必要になるかもしれないが、前段では課題あるいは実態の理解に努め、後段で、実効性のあるものにしていくかということで、この委員会として市民のみなさんの思いに応えられるあり方を考えていきたいと思っている。

議事2 学校施設再生計画(第2期計画)検討専門委員会の今後の取組について

事務局 今後の取り組みの内容としては、資料⑮の検討内容を御覧ください。

最終的には、この委員会の中で、学校施設再生計画に関する提言書を取りまとめたいただくこととなる。資料に記載のある第6回については、現在の委員の任期が平成31年3月31日までとなっているが、提言をいただいた後に、提言をもとに学校施設再生計画(第2期計画)を策定していく予定である。検討していく中で、改めて委員の皆様へ、この計画について、どのような形で反映されているか、もう一度お示しさせていただきたいと考えている。もし問題がなければ、要綱等を変更させていただきたいと考えている。

また、検討の過程を教育委員会会議で報告させていただき、意見をお伺いした中で計画を策定していくことを考えている。

委員長 取り組みの進め方についてご意見はあるか。

任期については、延長ということでご了解いただくということでよろしいか。

一同 異議なし

委員長 ありがとうございます。

佐々木委員 第2回8月の日程はこれから調整するということでよろしいか。

事務局 これから調整させていただきたいと思っている。

委員長 8月も予定されているので、よろしく願います。

その他ありましたらお願いします。

事務局 現在御配りしている学級推計については、住民基本台帳の人口を基に策定した推計となっており、また長期的な人口推計が出た段階で、推計につきましては、検討してまいりたいと考えておりますのでよろしくお願いします。

委員長 地域の方々の関心も、財政とも絡む難しい問題に対して、期限が限られた中での議論で、密度高く進めていく必要があると思いますが、覚悟の上お願いしたいと思う。

新しく造られた学校があるので、既存の学校施設再生計画を考えるときにも、新しく建ったものはできて、そうでないものは違うということではなく、建物の姿は違うとして、目指すものは共通だということがみな様にわかる形でまとめられれば良いと思っている。

新しい学校を委員で一緒に見て、考える土台を揃えるということも事務局で検討していただきたいと思う。

閉会

委員長 それでは、本日の会議は以上で終了させていただく。